

2011 年

8 月 1 日（月曜日）「復幸」の一助への鼓動 - 全国青年市長会「陸前高田市 復幸
応援センター」の開所 -

本日、岩手県陸前高田市の市役所仮庁舎敷地内のプレハブをお借りして、私も所属する全国青年市長会※による「陸前高田市 復幸応援センター」が、陸前高田の皆さんの応援のための拠点センターとして開所することができ、ご協力いただきました戸羽市長はじめ陸前高田市役所の皆さん、本会会員市長の皆さん、すべての関係者の皆さんに心から御礼を申し上げます。

現在、各自治体による東日本大震災の被災地への支援は、関西広域連合や全国市長会の仲立ちによるもののほか個々の自治体間の相互防災や友好協定など、様々な形で行われていますが、本会会員市相互の救災支援の取決めを踏まえ、開所に至ったものです。

まずもって、戸羽市長はじめ職員の皆さん、市民の皆さんには、未曾有の被災の状況の中で、昼夜を分かたず、復旧復興に身命を賭して御献身され尽力されておられますことに心からお見舞いと深い敬意を捧げる次第です。

会員各市が交代で主に 2～3 ヶ月単位で派遣し、スタート時には松阪市小林副市長さん（とても心強い！）をはじめ全 4 市、本市からも職員一名を派遣しています。

本日から、ここを拠点にさせていただき、「現場に全てがある」という理念を大切に、市役所の皆さんと連携し、陸前高田の市民の皆さんの中に入り市民の皆さんと全国各地の市民や民間の皆さんの支援や交流の力をつながせていただくことを中心に、会員市の皆さんの力を合わせて、市民の皆さんのくらしや生業、事業、日常の幸せの復幸を支援してまいりたいと思います。

そして、この拠点での取組みを、本会だけでなく、広く各自治体や民間の皆さんにも参加を呼びかけていきたいと思っていますし、また、この取組みがひながたとなって、他の被災地域にもより一層及んで、それぞれの枠組みや地域ルールの中で広く実現していくこととなればとても素晴らしく思います。

市民の皆さんの御状況は現実にはなお想像を越えた状況だと思いますし、我々として地元の活きた状況に接するのは初めてでわからないことも多いので、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、それだけに、何より大切なことは、常に市民の皆さんの中に入り、常に市民の皆さんの立ち位置、目線、お気持ち、こういったことを一番大事に、真剣真摯に向き合い、活動を進めていくことだと思っています。市民の皆さんのくらしや生業の復興、日常の幸せの復幸にとって少しでもお手伝いすることができればと心から願っています。

陸前高田には、全長 2 キロに及ぶ高田松原がありました。津波でやられ、現在一本松が踏ん張り立っています。6 月には本市の琴引浜白砂青松保全委員会の皆さんが松の苗

木を松原の復興のため寄贈されましたが、本市とは白砂青松のまちの仲間。また、本市は市内各町で多数の保存会等太鼓団体を有していますが、陸前高田は“太鼓の甲子園”とも呼ばれる全国太鼓フェスティバルが毎年開催される太鼓の里としても知られています。

復興応援センターの「看板」は津波で倒木した高田松原の松を使って、地元・高田の製材所の方とボランティア団体の皆さんの篤志により作っていただきました。「いのちは鼓動から始まる」と言われるように、今後とも、陸前高田市の復幸に向かういのちの鼓動の太鼓を、本市はじめ全国各地の多くの皆さんに力強く打ち鳴らしていただくことを願ってやみません。

もとより、被災地は陸前高田市だけではありません。本市として同市のみならず引き続き多くの被災地の支援に様々な形で力を尽くしてまいりたいと思います。

復興に歯をくいしばって頑張っておられる陸前高田の皆さん、そして、この素晴らしい陸前高田のまちと、こうして出会いとご縁をいただきましたことに心から感謝をいたします。

陸前高田のまちと何より市民の皆さんの復幸に心から祈念を捧げますとともに、本センターの活動の上に戸羽市長はじめ職員の皆さん、陸前高田市民の皆さんのご指導をよろしくお願い申し上げます。京丹後市はじめ広く全国各地の住民の皆さんにもご理解とご参加を心より念願しています。

※ 全国青年市長会：全国の原則 50 歳未満の若手の市町で「新しい時代をつくろう」という有志が参加し、8 月現在、57 市で構成。